

「社会形成力と土木学習の関連」ー土木学習の意義と可能性を考えるー

○ はじめに「西日本の集中豪雨と社会科教育との関連」

1 土木学習とは何か

土木とは、我々の社会に存在する様々な土木施設を「整備」し、そしてそれを「運用」していくことを通じて、我々の社会をよりよい社会へと少しずつ改善していこうとする社会的な営みである。(藤井聡氏より)

(1)「整備」の例

- ・ダムや堤防を作り自然災害を防ぐ
- ・道路や鉄道を作り、街・地域を便利に／元気にする
- ・水や電気の施設を作り、文明的生活・社会を発展させる

(2)「運用」の例

- ・地震や大雨の時に、どう逃げるかの社会的理解を促し、自然災害を防ぐ
- ・水や電気の適切な利用の仕方の社会的理解を促し、街・地域を便利に／元気にする

→これまでの社会科学学習では、「運用」をどの程度扱ってきたか？

(3) 新学習指導要領(小学校・社会)に見られる「運用」の新しい視点

- ・飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理「地域の人々の協力を得ながら・・・」
- ・災害及び事故の防止「関係機関は地域の人々と協力して」
- ・自然環境、伝統文化などの地域資源の保護・活用「協力による特色ある町づくり」
- ・社会保障(施設)を例とした政治の働き「自分たちのくらしと政治のかかわり」

→「改善の具体的事項」よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う

2 社会形成力の重要性

(1) 社会形成力の意義

未来に目を向けて、よりよい社会の形成にかかわろうとする資質や能力

(2) 社会形成力が求められる背景

- ①教育基本法第一条：教育の目的
- ②社会科教育の目的(役割)
- ③子どもの実態：公共意識の欠如

3 土木学習が社会形成力の育成に果たす役割(可能性)

(1)「社会科を考える会」の実践と提案から

(2) 授業づくりのポイント

- ①人の働きを見せる教材：思いや願い、工夫や努力、社会の進展に果たす人々の営み
- ②未来を見つめさせる教材：持続可能な社会、伝統・文化の継承等
- ③「参画」する意識を高める学習展開：自分とのかかわり、意思決定の場面
- ④自分の考えを練り上げる学習活動：話し合う、考えを書く等の表現活動

○ まとめ「土木学習に期待するもの」